

1 学校教育目標
自ら学び、考え、正しい判断のもとに行動できるよう豊かな人間性を身に付けた心身ともに健康な生徒を育成する。 (1)学級・学年や学校での集団生活を通して、市民生活や社会人としての基礎基本を身に付けた生徒を育成する。 (2)自己の目標を実現する為、学業や資格取得に主体的・積極的に取り組む生徒の育成に努める。 (3)明るく、素直な心を持ち、人を思いやることのできる徳知体のバランスの取れた人間形成に努める。

2 本年度の重点目標
学習活動や学級経営・ホームルーム指導を通じた集団・仲間づくりや部活動やインターンシップ(キャリアチャレンジ)・実習・体験活動を通して「わかる・できる喜び・学ぶ楽しさや役に立つ・認められる喜び」を実感させ「一人ひとりが自信を持ち社会に必要とされる・貢献できる喜び」を体験させることを教育の指針とする。 (1)学力の向上 (2)生徒指導と心の教育の推進 (3)進路保障 (4)部活動・生徒会活動・ボランティア活動・図書館(読書)活動の促進

3 自己評価総括表		評価基準			評価	成果と課題																		
評価項目		A:できている	B:概ねできている	C:できていない																				
大項目	小項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策																				
学校経営	建学の精神と教育目標・方針	学級経営への教育方針の反映 保護者との連携の促進	基本的生活習慣の確立と健康管理や安全指導の充実を図る	・生徒一人ひとりの個性を把握し、学習面・生活面での意欲の向上に努める ・連絡網(安心メール)・ホームページを通して保護者と連携を取りあう。	B	各学年集会や講話・ガイダンスと個人面談を通じて日々の生活、学習への取り組みや生徒一人ひとりの個性の把握に努め、指導・改善を行ってきた。家庭・保護者とも連携を取り合うが改善できない生徒がいた。学校行事や学年・クラス行事をプリントや学園メール・ホームページで案内するが手元に届かない場合もあり、連絡が伝わらないこともあった。次年度へ向けてもさらに工夫・改善に努めたい。																		
	教育環境の整備	教育環境整備を点検し、危険箇所等の早期改善を図る	教室、特別教室との安全点検と補修と周辺環境の整備を図る	適宜、施設を点検し、危険箇所の補修・改善を行う	A	校舎間に公道があるため、登下校や授業移動に時間がかかるため、安全指導に心がけた。大事故はなく安心してはいるが、今後も工夫・改善に努力していきたい。																		
学力向上	わかる授業への取り組み	生徒の理解度の把握	「授業への取り組みが消極的」以外の生徒の割合 90%以上を目指す	アンケートの実施 ※1学期の中間考査後、年度末 ※1学期中間考査後は生活面についても補足する。	C	卒業生の入学してよかった点のアンケート結果 <table border="1"> <tr><td>在籍に対する割合</td></tr> <tr><td>①気の合う友人ができた (67.2%)</td></tr> <tr><td>②クラスがとても楽しかった (28.8%)</td></tr> <tr><td>③いい先生に出会えた (26.4%)</td></tr> <tr><td>④検定が取れた (26.0%)</td></tr> <tr><td>⑤努力した結果が出た (23.2%)</td></tr> <tr><td>⑥目標が持てた (22.8%)</td></tr> <tr><td>⑦視野が広がった (20.0%)</td></tr> <tr><td>⑧精神面で成長できた (18.8%)</td></tr> <tr><td>⑧成績が上がった (18.8%)</td></tr> <tr><td>⑩自分を変えることができた (18.4%)</td></tr> <tr><td>⑪挨拶や礼儀、マナーを学んだ (15.2%)</td></tr> <tr><td>⑫部活が楽しかった (13.2%)</td></tr> <tr><td>⑬他人のことを考えるようになった (10.4%)</td></tr> <tr><td>⑭責任感が強くなった(9.6%)</td></tr> <tr><td>⑮積極的になった(8.0%)</td></tr> <tr><td>⑯授業が分かりやすかった(1.2%)</td></tr> <tr><td>⑰その他 (2.8%)</td></tr> </table> 授業が分からないという意見も各学年で見られ、授業の工夫を次年度更に検討していきたい。	在籍に対する割合	①気の合う友人ができた (67.2%)	②クラスがとても楽しかった (28.8%)	③いい先生に出会えた (26.4%)	④検定が取れた (26.0%)	⑤努力した結果が出た (23.2%)	⑥目標が持てた (22.8%)	⑦視野が広がった (20.0%)	⑧精神面で成長できた (18.8%)	⑧成績が上がった (18.8%)	⑩自分を変えることができた (18.4%)	⑪挨拶や礼儀、マナーを学んだ (15.2%)	⑫部活が楽しかった (13.2%)	⑬他人のことを考えるようになった (10.4%)	⑭責任感が強くなった(9.6%)	⑮積極的になった(8.0%)	⑯授業が分かりやすかった(1.2%)	⑰その他 (2.8%)
	在籍に対する割合																							
①気の合う友人ができた (67.2%)																								
②クラスがとても楽しかった (28.8%)																								
③いい先生に出会えた (26.4%)																								
④検定が取れた (26.0%)																								
⑤努力した結果が出た (23.2%)																								
⑥目標が持てた (22.8%)																								
⑦視野が広がった (20.0%)																								
⑧精神面で成長できた (18.8%)																								
⑧成績が上がった (18.8%)																								
⑩自分を変えることができた (18.4%)																								
⑪挨拶や礼儀、マナーを学んだ (15.2%)																								
⑫部活が楽しかった (13.2%)																								
⑬他人のことを考えるようになった (10.4%)																								
⑭責任感が強くなった(9.6%)																								
⑮積極的になった(8.0%)																								
⑯授業が分かりやすかった(1.2%)																								
⑰その他 (2.8%)																								
学年の取り組み	学習習慣・基礎力の定着と検定等の合格	漢検、数検、英検、朝・夕の課外や宅習ノート、個別指導	朝・夕の課外や宅習ノート、検定前の重点指導を行う。eラーニングの積極的活用を図る	B	著しい成果が出ているコース・クラスもある。eラーニング(すらら)では、しっかり取り組んでいる生徒は、確実に成績の向上につながっていた。																			
キャリア教育 進路指導	進路目標の実現	・進路実現につながるキャリア教育の実践と基礎学力の養成 ・資格取得の推進 ・教育改革への対応	・進路講演会やガイダンスを実施し、職業観の育成と適性の模索をしていく中で進路の意識を高める。 ・社会人として対応できる「挨拶」を含むマナーの向上 ・オープンキャンパス及び企業見学の参加率 100%を目標とする ・教育改革における大学入試共通テストや学びの基礎診断などの情報収集に努め教職員および生徒に還元する。 ・英語 4 技能評価やPDC	①LHRの活用や総合的な学習の時間との連携を図り、進路学習に取り組んでいく ②各学年、講演・ガイダンスを年3回以上の実施 ③e-learning(すらら、スタディサプリ)の活用 ④進路相談、個別面談の充実 ⑤外部講師による面接指導の実施 ⑥進路情報の提供 ⑦資格取得によるAO、推薦入試の活用 ⑧総合探究コースと総合ビ	A	①⑧総合ビジネス科のインターンシップに加え、総合探究コースではキャリアチャレンジや職業講話により探究活動の中で進路学習を深めた。 ②⑤「充実」から「精選」のフェーズに移行 ③システムの向上に伴い活用見直し ④⑥今後も情報集約に努め、個々への丁寧な指導を続けていく ⑦各教科の協力で実績を上げている ⑨進路指導部をはじめ、管理職や教務部からも研修セミナーに参加し、全国の先進校の取り組みを知ることができた。次年度以降は本校で実践していく内容の検討を行っていく ⑩英検に加え、GTECの取り組みを検討中 ⑪これまでの講義形式の授業や大学入試に対応する授業内容と、活動中心の授業をどう融合さ																		

			Aサイクルを踏まえたアクティブラーニングを取り入れた授業改革を検討する。	ビジネス科ではインターンシップを通して職業体験を実施 ⑨各教育サポート業者からの情報収集や、研修セミナー等に参加し、本校の教育と生徒の実情に合わせた取り組みを検討・模索する。 ⑩これまで取り組みを強化してきた実用英語技能検定をはじめとする外部試験を比較検討する。 ⑪アクティブラーニングを実践している授業の情報を各教科に紹介し、授業の見直し・改善を促す。		せていくかは、時間をかけてじっくり試行錯誤していく必要がある。
	一人ひとりの進路目標達成	・個に応じた進路指導の推進	・多様化する生徒の進路目標への対応の推進 ・多様化する入試制度への対応 ・課外、資格対策の充実	①オープンキャンパス等への積極的参加 ②入試傾向の分析と対策の充実 ③課外、模試、学習合宿等の実施 ④校内外の進路ガイダンスへの参加 ⑤組織的な個別指導、面接指導の充実 ⑥小論文・作文指導の充実と負担軽減に取り組む ⑦企業や各種上級学校の情報を早期に知る	A	①④希望を把握しての参加を促す声掛けで積極的な行動につながった ②情報と過去問等による対策で進学・就職ともに成果があった ③長期課外では模試の対策を目的とする内容の検討・改善が必要である。学習合宿のあり方を見直し検討する時期かもしれない ⑤進路部と学年団に加え職員全体で面接指導に取り組んでいる。指導内容の一貫性を高める必要性がある。 ⑥小論文指導セミナーに国語科以外からも参加し、担当やルールを決めるなどの改善がなされた。
生徒指導	交通ルールの徹底	交通マナーの向上と登下校時の交通事故防止	登下校時における学校周辺の列行と盗難予防の意識を高めるための二重ロックの徹底。また、校舎間の移動時の公(市)道横断の安全性を高める。	登下校時の交通指導と二重ロックの点検を定期的に行い、普段から校舎間の移動に対する注意喚起を行う。	B	登下校時の交通マナーは、正門に立ち、指導することで若干の改善は見られ、また、苦情も少なかった。校舎間の移動では、雨天時や急いでいる時にそのまま車道に飛び出したりすることがあったので、注意喚起を徹底すべきであると感じた。
	校則に対する規律意識を高める	校則に対する自主的な規律意識の有無	SNSなどのインターネットを介した誹謗中傷等による生徒間の問題を減少させる。	「SNS」や「薬物防止」等の講話を実施し、生徒の防犯意識を高めるようにする。	B	SNSでのトラブルが多く、SNS上における誹謗中傷よりもむしろ生徒指導に該当する画像・動画のアップにより問題になることが多かったが、学期後半は減少した。改めて、SNS使用についての学習が必要であると感じた。
人権教育の推進	職員の人権意識向上	生徒の人権に配慮する力の向上	校内研修の充実	人権問題に関する知識を充実し、考察を深める研修を主担者が行うとともに、校外での各種研修への参加を促す	B	生徒の個々の事例に対する対応の中で、生徒の人権に対する意識を向上することはある程度できた。また、職員に対する研修も主担者が行うことで、生徒への指導力向上を図った。
	生徒の人権意識向上	他を尊重する態度の育成	研修の充実、日ごろの教育活動における指導の充実	校外の講師を招いた研修会を開催。また、集会、LHRなどの機会を利用し、主担者等が講話などを行う。	C	ホームルームでの担任を通じた意識向上の呼びかけなどはあったが、時間が確保できず、研修が不十分であった。
いじめの防止等	いじめの実態把握	いじめの早期発見に努める	いじめに対する学校としての方針を徹底すると同時に、それらを生徒に周知する機会を設ける。	いじめをしない、させない、そしていじめを許さない学校としての方針を集会等で話す。	B	いじめに該当する事案は発生しなかったため、本年度の具体的目標と具体的方策を徹底していくべきであると感じた。
	指導体制の整備	各部署との連携を図り、いじめを未然に防ぐことのできる体制づくりに努める。	常日頃から担任、学年主任、そして教育相談、スクールカウンセラー、生徒指導部の連携を図る。	いじめ防止対策委員会を更に機能させ、指導体制の組織化を図る。	B	各部署との連携を図り、日常的に生徒の情報交換ができたので、今後も継続していくべきと感じた。
図書館教育	読書活動の充実	読書活動の推進	生徒1人当たりの貸出冊数の増加	図書館便りなどを発行し、生徒に図書館への興味を持ってもらえるように工夫する。	C	教室棟と図書館棟が離れているため、生徒の図書館利用が困難な状況になっている。移動図書などを行う必要があると感じた。
	各教科との連携	蔵書に偏りなく豊富な資料の確保	情報が偏らないように多方面の資料を集める。	生徒からのリクエストに応じるだけでなく、各教科の内容にリンクするような資料を集める。	B	進路のための本屋、フィールドワークに関連した本を入手することが出来た。一方で、古い資料もまだ多く残っているので、情報の更新が必要だと感じた。

学校 保健	心身の健康への興味関心の向上と、健康管理・傷病予防の為の実践力育成	<p>①年に一度は、生徒が自分自身の健康状態を把握する機会をつくる</p> <p>②個別指導や掲示物の活用などを通して、自他ともに健康で安全な生活を送れるよう指導を行う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保健調査票や健康診断の結果などを基に個別指導を行う ・保健室来室時、適切なセルフケアの方法を指導する ・心身の健康に興味を持ち、正しい知識を得るために、学期に一度は保健便りを発行し、校内掲示物の工夫を行う ・生徒保健委員会活動を通し、健全な生活を営むための発表の機会を設ける ・生徒対象の普通救命講習(修了証の交付 講師:消防署)を1回実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健調査票や健康診断結果などを基に生徒へ個別対応を行い、必要時、教職員及び保護者との連携を図った。また定期健康診断の事後対応として、治療や精密検査等が必要な各家庭に受診勧告を行ったが、受診結果の報告及び受診の徹底ができなかった。今後は学校健診及び事後対応の受診率向上を図りながら、教職員・保護者との連携強化に向けて取り組む。 ・生徒来室時に生徒自身が体調不良・負傷の原因を考えセルフケアができるよう対応した。しかし、複数生徒来室時には時間的制限もあり、細やかな対応への限界を感じた。今後は限られた時間でも理解を促しやすい資料等を活用しながら生徒のセルフケア能力向上を図りたい。 ・今年度は保健便りを1・2学期に4回発行(昨年3回)、その他国や県からの心身の健康に関する冊子等を配布。また、校内2ヶ所に写真社新聞の記事やポスター等を掲示し、生徒への注意喚起や健康への学びが深まるよう働きかけた。今後は季節に応じた保健便り発行に力を入れ、生徒が正しい知識を得る機会を増やす必要がある。 <p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒保健委員会では、「キャップでわかる?!人体の不思議展」をテーマに文化祭の催し物(体験型展示)を実施。保健委員のうち文化祭担当者を中心に、キャップで作成した人体模型や身体に関する不思議、キャップやレンズケース等のリサイクルについての説明を行った。文化祭当日は本校生徒・他校生徒等も身体やリサイクルに対する関心を深める企画となった。今後はより生徒主体の活動となるよう働きかけたい。 ・10/5に普通救命講習を実施し、31名の生徒が受講、修了証が交付された。今後も生徒の意識向上のために講習の機会を設けたい。 ・7/19全校生徒を対象に、かがやきスクールと連携して外部講師(宮原陽先生)による講演を実施。月経や性感染症・妊娠等について講演を行うことで、夏休み前に性に関する知識や自尊心の向上を図った。 ・2年看護科を対象に、学校薬剤師による「おくすり教育」の講演を実施。普段身近にある市販薬・処方薬、また薬剤耐性等看護科特有の知識を学び、自他共に健康の保持増進のための知見を深めた。今後も実施時期を検討し、講演等の魅力ある授業を通し、主体的に生きる力の育成に繋げていきたい。
	学校環境の整備を行い、美化意識の向上を図る	環境美化の推進	<p>①清掃指導の徹底</p> <p>②環境美化の意識を高める活動の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒整美委員による美化コンクールを学期ごとに実施 ・掃除用具の定期的な点検 ・学校薬剤師の指導に基づき、環境検査・環境整備を実施し、改善を図る

					する。 ・生徒保健委員の活動として、ペットボトルキャップ・コンタクトレンズケースのリサイクルを実施。昨年度に比べ回収率は向上しているが、保健委員の活動の自主性は乏しい。今後は保健委員の意識改善及び生徒全体への呼びかけを徹底し、活動意欲を高めることが課題である。
--	--	--	--	--	---

<p>4 学校関係者評価</p> <p>学校長より報告</p> <p>学校目標は高校生活は社会に出る準備期間の3年間と捉え、社会で必要とされ貢献できる人材の育成を目標としている。重点目標は生徒指導と心の教育の推進で、きちんとした生活があってこそ学力の定着や向上につながっていくと考えている。生徒たちにきちんとした授業態度を教えるとともに、私たち教師も指導強化を図っていくことが就職・進学で各一名を除き100%進路決定をしており進路保障として表れている。基本的な学習の力が部活動やボランティア活動・生徒会活動を通して、心の教育の充実にもつながっていくのではないかと考えている。学校経営は、まず学校に来るという基本的な生活習慣の定着というところを一番主にやってきて、今年も精・皆勤賞の生徒が全学年の約43%で昨年度の40%から少し向上している。一方、授業中の態度や生活態度が1年を通じ他の生徒に迷惑をかけていた生徒に対しては再試を認めず原級留置となっている。また、学校からのプリントは保護者に必ず渡すように言っているが、なかなか徹底できていない部分もある。学校安心メールやホームページでもできるだけ紹介もしているし、教室以外での授業や総合探求コースの取り組みは授業が終わり次第ホームページにアップすることも行っているが、まだまだご指摘を受ける部分があった。学習面ではわかる授業の取り組みを中心に行っており、6月と3月の生徒アンケート調査を見ると「ある程度分かる」といった生徒は80%以上いる一方、「分かりにくい」と「わからない」という意見が、生徒たちの能力であるのか、教師の指導力であるのか見えないところもあるが、私たち教師の反省として考えていきたい。また、すららなどのeラーニングは取り組んでいる生徒は好成績を残しているという。さらに、年間成績80点以上の成績優秀賞を表彰したが、今年も1~3学年で29.5%が表彰されている。総合ビジネス科などの検定では、全商簿記1級4名、電卓5段にも合格し、1級12名他100数十名が合格を果たしている。文科省英検も2級3名、準2級11名、数検も2級1名、準2級16名合格を果たした。このようなことから、生徒たちもある程度知識技能の習得に努力してくれたのではないかと考えている。ここ数年進路ガイダンスや講話を1年次から取り組んでいる。早い時期からインターンシップやキャリアガイダンスを通して、生徒たちに情報を提供して自分の適性を知るという取り組みを行っている。一番目立ったものはスマートフォンによるSNS事案であった。その中の大部分は画像をアップしたもので昨年度7件程度だったものが十数件発生している。本校では携帯を持ってよいとは認めてないが、今後SNS教育等も行いながら今後どう対応するか検討しなければならない時代になっていくと考えている。また、いじめ事案に関しては、仲間の1名が仲間外れにされてクラスに入れなくなったが教室に戻れた。年間を通しての学習態度や指導に対し従わないということで原級留置で転学もあった。また、生徒が教師に対する暴言もあった。また、大変残念であるが教師の不適切事案が発生し依願退職されることになった。</p> <p>アンケートに協力していただいた70%~80%の中で、全項目でA(よくできた)またはB(どちらかと言えばできていない)の評価がほぼ60%以上であった。<保護者からの要望で授業参観等はあっているか>家庭とうまく連絡が取れていないと感じている。<体育の成績はどのようになっているのか>強化クラブの生徒はすべてAになっているわけではなく、体育テスト等の結果で評価されている。<学校生活の様子をホームページ等で掲載したり、安心メールで通知して>普通の授業の分はアップしてないが、色々な場面で活動しているものはホームページにすぐアップしてある。<所作というか子供たちに品格がない>子供達には言葉遣いや礼法についても授業でやっているが、まだまだ不十分な面もあるかと考えている。<短縮授業が多い>働き方改革が進んでいる中、教務処理をする時間が足りないため仕方ない分もあるが、工夫をしていきたい。<学校からの便りを郵送してくれないか>できるだけ伝えられるように考えていきたい。<言いやすい子には厳しく注意して、言いづらい子には甘いとか諦めている>そういったことは聞いたこともあるが、諦めているというようなことはない。<分かりづらい授業がある>生徒の評価が各学年・学科で出ているので、それを見ると直接名前は書いてなくても誰のことなのかは分かり、各教科で対応していくようにしている。</p> <p>学校評価委員より</p> <p>皆勤率が上がったという話を聞くと嬉しくなるが、分かる授業への取り組みがC評価はどうかと思うが、生徒の生の声、どこがどういうふうに分からないのかを具体的な教科であるとか、授業のやり方を改善していただけたらいいのではないかと。学校で将来についてイメージしやすい進路指導を頑張ってもらいたい。私も不祥事があったことはショックで、話を聞くとその話に尾ひれがついており非常に残念であった。私学でスマホの持ち込みは各学校に任されておりバラバラの取り組みである。生徒と保護者の連絡手段としては有効だと思うが、授業中は禁止するという方がいいと思う。安全で便利であることは分かっているが、子供たちの使い方が問題である。先生方も子供が持っているのでLINEで連絡を取ったりする安易さは危ういものがあるということで、連絡にLINEはしないよう注意している。子供達には今ある基準で、校内で音が鳴ったり、使ったりしたら預かり、保護者に返却をするという事になっている。</p> <p>学校の細かいことは分からないが、4・5年前に比べれば服装や態度など非常に良くなってきている。流行だったかもしれないが、靴のかかどをつぶして履いたり、我が家の駐車場だつむろしていた時に注意すると反発をしていたが、最近はずっとそういったことが無く、学校の指導が徹底されていったのではないかと。もう一点、朝夕に道路を渡る姿を見て、先生方も指導されているけれども運転している方に迷惑だと思う。歩道橋をかけることはそんなに規制が厳しいのか。連絡通路は検討しているが、交差点の中心から10m離さなければならず、設計士に図面は書いてはいただいている。しかし、それを許可申請ということになるとまだまだ時間がかかるので、申請できるようにやっているとこである。</p> <p>不祥事の話がありましたに対応が素早く速いと感じた。外部に知られてもおかしくなかったと思うが、何事もなかった状況は校長先生をはじめ、早くて的確だったと思う。先生たちが実力行使する時代ではないので、言って分からない子は我々スクールサポーターでも少年係でもいいので要請があれば応じる。あと、SNS関係は警察でも学校で講話をしている。先日県警が監修した大人向けのスマホ対策が来月配布されると思うので、学校と一緒に考えていくのでどんどん言っていただきたい。</p> <p>教師の質が問われているというか、時代だからか先生方も大変だなと思う。不祥事を起こした先生に関しても、子供もすでに卒業しているがいち早くSNSで知った。先生たちに対する教育を定期的ではなくても対応をしたほうがいいと思う。今の時代はマニュアル通りにはいかない時代なので、生徒もわざと先生を挑発して画像をアップしたり、どこまで先生を責めたらいいのか、生徒ばかり攻めてもいけないしと本当に現場は大変だと感じた。私も今回の対応の速さにはびっくりしました。職場でも定期的に面談とかやっていますが、中央高校でも面談とかあるのか? ストレスチェックはやっており、外部の方がそれを見られて必要であれば面談が入っていく。その報告は校長が受る。よほど悪くない限り私から呼ぶようなことはしない。今、SNS講話はどこに依頼されているか? LINE株式会社に依頼している。業者でもいいが、技術的なものが多いので、警察では被害の実例を保護者や生徒に教えるため、たまには警察のほうに依頼されてもいいのでは。</p> <p>図書にかかわる仕事に就いているので、図書館教育で本の貸出数が少ないというのが残念です。読むことですごく知識が高まったり、職業に結びつくと思います。18歳からの何とかなというヒットした就職関係の本や看護の専門書もあるので、授業でも生かしてもらおうと自然に図書館にも向かうのではないかと思います。教室から遠いこと、司書も昨年度は産休していたこともあるが、来年度は図書の本部校ということもあり改善していきたい。また、朝の読書の時間があるが検定前になると検定の学習をやっていくクラスもあるため、全校一斉にやるということができていない。今回も職員会議で議論になり、一斉に読書という形はやめて基礎学習ということで各クラスで取り組んでいく事になった。図書部のほうからの提案で、貸し出しは教室棟の1・2号館と図書館が一番離れた位置にあるためなかなか貸し出しに結びつかないため、新刊などを図書委員が1・2号館へ持って行って貸出業務を行っていいですかと尋ねられたので、それは良い案なので新年度提案して下さいとあります。先ほど、教員の質というご意見がありましたけれども、明日教職員向けにコンプライアンス研修会を行うことになっている。社会保険労務士からの実例を踏まえて講義を行う。</p> <p>保護者アンケートで挙がっているものを見てみると、今問題なのは子供なのか親なのか分からなくなっていると感じている。いじめにしても暴言にしても、きっかけは親が子供に何げなく口にしてることから始まることが多いのではないかと。実際に親に情報が行くのは親同士の連絡網であったり、子供がその子供目線で見ることが伝わって、親がそれを鵜呑みにし、子供に言った言葉がそのまま学校で友達に言ったり、態度で示したりすることでおかしくなっている部分があるのではないかと学校に尋ねてみて感じた。ただ、アンケート結果のように感じられている保護者の方々への対応もホームページ等でやっていくと無くなっていくのではと思う。また、どうしても子供の髪の毛の色であったり、生まれながら色素の薄い子供などこれからどんどん変わってくると思う。それを今は染めさせるとなっていますが、染めると髪は傷むので子供が染めたくないのであれば、それを認めてくれる学校に行く事となり、その線引きが難しいため目に見える基準ができるといいと感じた。一つ認めると後が大変なことも分かりますが、一つひとつクリアしていく事も大切でないかと思う。ここに書かれていることは、非常に生々しい話が多くあるのですが、これはおそらく生徒が一方的に親に話した話、親が聞いて表現した話だと思えますが、明らかに誤解ではないかという部分も多々あるので、ぜひこのままにしておくと言葉が独り歩きしてしまうことになるので、何らかの対応策を後援会を通じてなのか、総会や学年会などの場を通じて誤解を解いていくと、少しずつ減ってくるのではないかと。問題が起きてしまったときにどう対処するかが一番大事なところで、生徒のいじめであったり、態度の悪い生徒がいる、それは有ってはいけませんが起きても起きてもその時の対応を聞いて、信頼できる対応をされるんだなと感じました。ちょっと厳しい位というとおかしいですが、きちんとされているという印象です。学力とか進路の指導に対して色々思われている保護者もいらっしゃいますが、こんなに1クラスの少人数の学校は滅多にないというか、絶対に手厚いと思う。全クラスがそうであるかは分かりませんが、入学当初から先生と生徒との信頼があり、一人ひとりの子供に対する指導のできる環境は絶対的にあると思うので、今後の中央高校には大変期待をしています。</p> <p>4月、5月は事故が大変起きやすい時期で、昨年度もある高校で事故がありました。本校も引き続き交通指導に力を入れていただきたいと思う。</p>					
<p>5 総合評価</p> <p>(1) 学級経営への教育方針の反映と保護者との連携促進及び教育環境の整備 具体的目標の基本的な生活習慣の確立について、全体の出席率約97%と長欠者がいる学級もあるものの高く維持できている。精皆勤となる者も40%以上と年々増加している。また、保護者との連携では学校からの「たより」や学年・学級通信等のプリントが手元に届かない点は課題として残る。教育環境整備でも校舎間の移動で公道を渡る点は現状維持で大事には至っていないものの、生徒・先生・保護者の安全・安心に努めていきたい。</p> <p>(2) 学習指導 ~わかる授業への取り組み 生徒アンケートで1学期(6月)時点では「ある程度わかる」・「わかる」が80%以上であったが、3学期(3月)時点では逆に減少した学年・学科がある。授業内容と進度が進むにつれて理解度や記憶度の低下による差が生じているが「eラーニング・すらら」の活用では好成績につながっている。また、成績優秀となる者も前年同様、各学年約30%いる。各種検定の上位取得も増え、卒業要件となる検定級も早い時点で取得する等、良く努力をしている。</p> <p>(3) 進路指導 ~進路実現につながるキャリア教育の実践と基礎学力の養成と個に応じた進路指導の推進 今年度も1年次より進路ガイダンス・講話や各種セミナーを実施し、インターンシップやキャリアガイダンスを通して情報の提供と各自の個性・適性を知る取り組みを行った。正しい職業間の育成や意識の向上と企業見学や上級学校の特色を知るためにオープンキャンパスへの参加を促し、進路決定100%を達成できた。基礎</p>					

学力向上のため、eラーニング教材（すらら・スタディサプリ）に取り組み、学力向上を図った。また、就職・進学希望者全員に小論文指導や面接指導も行い、好結果につながった。

(4) 生徒指導 ～交通マナーの向上と登下校時の交通事故防止と校則に対する自主的な規律意識の育成
交通マナーは教職員の指導もあり向上しており、違反・事故も少なかったが荒天時の登下校では注意が必要であった。また、「SNS」でのトラブルは前年度よりも増加した。誹謗中傷ではなく、個人・グループで安易な画像のアップが多く、今後も指導の必要性がある。

(5) その他
人権の配慮や尊重では個別対応はできていたが講話による研修のみで時間の確保を感じた。図書指導は教室棟との距離からか利用できていない。保健指導は概ね達成できている。今後も各指導において生徒の健全育成に努めていきたい。

6 次年度への課題・改善策

(1) 学校だより・通信等の家庭への連絡は生徒託送の徹底や学校ホームページとメール配信をこまめに行う等により改善していく。校舎間移動も引き続き連絡通路設置に向けて行政とも検討していく。また、保護者からの連絡は専用電話回線受付システムにより双方向での連携を図っていく。

(2) 学習指導においては、年度初めの職員会議や各部科の総括会議等で再度「わかる・できる授業」の展開を行うことの確認と、定期考査や小テスト等の取り組みの中で各教科・各担当でチェックを行い、教材研究や授業プリント作成等を見直し、生徒の学習意欲の向上と学習到達度の把握を行い、基礎学力の定着と向上につなげていく。また、eラーニング教材の活用も引き続き行い、各個人ごとの学習到達度アップにつなげたい。

(3) 進路指導においては、早めの進路選択と方向性の決定へ向けて講話・セミナーやガイダンスを取り入れ、上級学校や事業所の特色・内容等を自主的に調べられるように準備し、一人ひとりの適性や必要な資格取得に結びつけ、生徒・保護者に丁寧に説明できるように情報の収集・発信に努める。

(4) 生徒指導においては、生徒の安全・安心をさらに向上させられるように努力する。交通安全指導にルールとマナー遵守、薬物防止講話やSNSの使い方指導等生徒の健全育成のために保護者と連携して取り組んでいく。

(5) その他 人権教育、心身の健康教育、図書館利用と読書指導や防災避難訓練の実施等を通して意識の向上を図っていく。

平成 30 年度 学校評価（自己評価・関係者評価）について報告します。

平成 31 年 3 月 27 日

学校法人 加寿美学園
熊本中央高等学校
理事長 和田 秀雄 様

熊本中央高等学校
学校長 池田 廣

決裁	理事長 和田 秀雄	学校長 池田 廣	教 頭 古澤 哲二	事務長 柴田 徹
----	-----------	----------	-----------	----------